

# 九州運輸局メールマガジン

第418号 令和元年10月10日（木）

## 運輸安全だより（安全取組事例の紹介）

### モチベーションの維持で社員のマンネリ感を解消する

弊社（鉄道事業 社員120名 うち乗務員 90名）は大きな事故はないものの、いったん事故を起こしてしまえば、社会への影響が大きいものがあります。そのためにも、社員が感じる「マンネリ感」や「慣れ」をなくすことは大変重要なことと考えており、以下の取組を実施しています。

#### ■ 自治体主催の交通安全フェアに参画

地元自治体や警察との連携による交通安全フェアに参画しお年寄りや子供達を対象に非常停止ボタンの操作方法や踏切の安全通行、線路に石を置かない等のチラシの配付を行っています。地域の皆様とのコミュニケーションを図るとともに安全啓発活動も実施し、今ではこのフェアを盛り上げるために子供達が喜ぶ工夫を施すようになってきています。

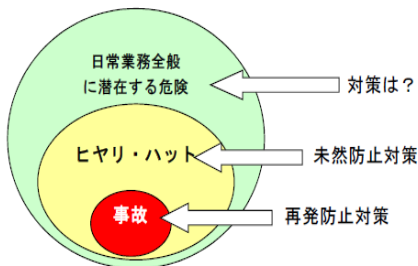


#### ■ 「安全再確認の日」の設置

過去に起こした事故を風化させないために、事故のあった10月1日は「安全再確認の日」として日々の事故防止の取組を改めて確認する日としています。当時の状況や事故復旧に携わった方の話を協力会社や委託事業者も交え意見交換を行ない、取組の振り返りなどを行っています。

#### ■ 社長の言葉を社員に発信（内部監査の活用）

社長に対して実施した内部監査の結果を社員に公表し、社員のモチベーションに反映させるべく、社長の安全に対する強い気持ちや安全投資に関する予算等の内容を発信しています。社長に対する内部監査は日頃の言動を「内部監査チェックリスト」等に照らし合わせ、インタビューも交え作成し、内容を確認してもらいます。日頃聞くことのない社長の思いを聞くことにより、現場の内部監査に取り組む姿勢にも変化が表れ、これらを如何に安全に繋げてくかという議論に発展してきています。



#### ■ 事故の未然防止への取組

「恐れのある現象」「～しづらい現象」「～しにくい現象」等についての報告は終業点呼時に聞取り、事故未然防止に対処していますが、ヒヤリ・ハットの情報はなかなか出てきません。アンケートの結果では、「自らのミスをさらけ出したくない」「ヒヤリ・ハットしたことがない」という声があり、前述の「恐れ」「づらい」「にくい」の報告としてお願いしたら情報の増加につながりました。その後は、潜在する危険の掘り起こしについての重要性を納得してもらった結果、ヒヤリ・ハット情報についても提出が増えてきました。

日頃の安全に対する取組の「マンネリ」や「慣れ」は社員のモチベーションの維持と関連していると考え、一年を通じメリハリを効かせた取組により、安全風土の構築を目指しています。